

学校評価 公表シート2

1 本園の教育目標

建学の精神にのっとり「躰に重点を置き、心身ともに健全で情操豊かな子ども」をめざす。幼児一人ひとりが自信をもって、明るく楽しく落ち着いて生活し、生きる喜びをもてるような教育活動を行っている。

- ① 明るく、楽しく、友だち同士仲良くできるように計画し、指導する。
- ② 幼児の能力や性格などを伸ばすように、教育研究と指導実践の両面を進めていく。
- ③ ふだんから健康衛生に対する関心を高め、実践を通して習慣化していく。
- ④ 集団の中での規律、友愛、礼儀作法が身につくようにする。

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

より質の高い教育を提供し、園児たちの健全育成を達成するために、教育内容のさらなる充実・深化を図る。そのために職員研修のさらなる充実と働き方を見直していく。

3 評価項目の達成及び取組内容

評価項目	取組内容
1 保育者の指導力・保育力向上	<p>教職員自身が「主体的・対話的で深い学び」に繋がる研修の在り方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育の記録（動画、画像）と振り返り ② 研修を主体的に「自分事」として捉える意識づくり ③ 自らの保育を振り返る週案の在り方
2 求人と採用	<p>派遣業者に頼らない園独自の求人・採用システムの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 養成校への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・園長による学校訪問 ・養成校の教官との関係づくり ② 学生への直接アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験や行事のアルバイト募集 ③ 教育実習生への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・実習生によるLINEグループの登録、配信 ・実習最終日の園長や副園長との面談
3 「働き方改革」の推進	<p>「笑顔」で「元氣」に働き、「働きがい」を感じるために</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 時間管理、時間を意識した働き方 <ul style="list-style-type: none"> ・勤怠システムの有効活用 ・退勤ボードの活用 ② 業務や仕事内容の見直し、精選 <ul style="list-style-type: none"> ・学年リーガール会、職員会・職員研修での話し合い ・降園バス専用担当の募集 ③ 効率化を図る環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清掃・清潔・躰の5S ④ ハラスメントを生まない環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する研修

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1 保育者の指導力・保育力向上

「保育の見える化」が言われて久しく、園としても様々なツールを利用して取り組んでいる。一つはiPadで画像や動画を撮り、子どもたちと観ながら長所や改善点を話し合う場を設けており、その活動も定着してきた。発表会のリハーサルや練習中の動画を観て、子どもたちからの意見や気付きを吸い上げ、その後の練習や本番に繋げていった。子どもたちは、自分たちの活動を客観視できるため保育者の指導・指摘に納得しながら練習する姿があった。

2 求人と採用

5月に養成校6校に直接出向き、保育体験や行事のお手伝いアルバイトのポスター掲示を依頼した。その結果、1名の学生が七夕まつり発表会のお手伝いに繋がった。また養成校教官との関係づくりにも取り組み、今後も継続していきたい。教育実習の学生に対しても、最終日に園長・副園長による三者面談を実施し、幼稚園教諭の魅力をアピールした。しかし、最近の傾向として、新制度の「こども園」を志望する学生が多く、私学助成の私立幼稚園の魅力があまり伝わっていないという課題が残った。また、実習生によるLINEグループを作成し、実習後も子どもたちや行事の様子を配信した。

3 「働き方改革」の推進

本年度は、教職員の体調不良者が続出した。行事が続く2学期以降、体調不良の職員が出たことで、その分の業務が他の教職員にしわ寄せが出て、さらに他の教職員が疲弊するという「負のスパイラル」に陥ったことが一つの要因と考える。そのため学年リーダー会や職員会および職員研修では、「時短」に向けて業務内容精選のための話し合いを持った。ただし「保育の質」を担保するため、保護者へのサービスの業務を削減および廃止する方向で行った。また、教職員の打ち合わせなどの時間確保のため降園時のバス添乗に外部の人材（パート）採用にも取り組んだが、現状なかなか集まらなかったことが課題となった。

来年度は、5時までに退勤できる「時短」と、運動会や展覧会、発表会における考え方を見直すために岡山大学の横松教授が提唱する「カリキュラムマネジメント」を取り入れ、基礎基本に立ち返った保育を進めていく予定である。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1-①「働き方改革」の推進	「時短」と「働きがい向上」に向けた様々な取り組みの実践
1-②求人と採用	養成校との関係づくり 教育実習に対する本園の考えを養成校へアピール
1-③保育の基礎基本への立ち返り	カリキュラムマネジメントの採用

6 学校関係者の評価（保育参観に参加して）

- 心身統一では、お手本となった子どもの何が良かったかを具体的に話し合うことで、目標が分かりやすくやる気アップに繋がっていると感じた。
- 日課や音感教育では、子どもたちの様子を見て、その時その時に合わせて進められていた。良い所や直した方がよい所も具体的で分かりやすかった。

7 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。